

# コロラド州立大学 (CSU)

## 滞在報告

小林幸江

(2016年3月19日~5月15日 滞在)

2016年3月19日から5月15日まで、CSUで日本語教室のボランティアをしていました。



**【初めての CSU】** 登校初日は大雪が私を迎えてくれて、キャンパスまではアパートから歩いて行きましたが珍しく休講。誰もいない真っ白な CSU が素敵でした。

1・2年生のキム先生のクラスでは、日本語イントネーションの補佐に、3・4年生のベーケン先生のクラスでは、日本とアメリカの慣習の違いとか、日本語授業に対する感想を求められ、コリンズ先生の日本文化

のクラスでは、着物の着付けや日本料理などの実務の補佐を務めました。

4月の第1週目は、1・2年生の日本文化ワークショップで、お茶・

お花・狂言・着付け・日本食・折り紙などのクラスを、現地の日本人家庭婦人たちと楽しみました。



**【現地の人たちとの交流】** 50歳から始めたテニスも、現地のシニアメンバーと共にプレーを、また立派なCSUテニスコートでは、大学No.1の女子学生とゲームを楽しむことができました。もちろん彼女とのシングルス戦は、0-6, 0-6の完敗でしたが。デンバー大学でのジャパン・カップについても、連日放課後の訓練・補習に立ち会い、今年も優勝カップを持ち

帰ることができました。

毎週日曜日には、フォートコリンズの大きな教会、アパート地区の教会やキム先生所属の韓国人教会のミサに参加することができ、日本の教会との違いを勉強することができました。

**【学生の雰囲気】** 現地の小学生の日本語でのスキヤット(寸劇)は、私たちの下手な英語の日本語バージョンを見ているようで、楽しいものでした。

CSUの卒業式にも参加して、アメリカでは誰でも入学できるけど、卒業することの大変さを実感しました。それに、日本語を勉強する学生たちが、アメリカ人にしてはシャイで、自己主張することが少ないことが意外でした。

**【日米文化の是々非々】** 振り返ると、コロラド・スカイの大きさ・青さと、緑多い広大なキャンパスがよみがえると共に、お互いが寛容で多民族の国家、そして豊かな国アメリカである反面、「隣は何をする人ぞ」なのか、礼節を持った上での表面的なお付き合いの国のように感じました(老人たちは、大きな家でけっこう孤独なのでは?)。

これに対し、横並びでせっかちで、突出したものに対しては非寛容なわが日本、そしてまだまだお節介な、私たち年代が生きている日本。

日米両国の文化の是々非々を肌で感じ、これからの私自身の生き方を感じるものがたくさんある滞在でした。

